

生活困窮者 弁当で元気に

中央区 1984年にオープンした老舗ジャズバー「デイバイデイ」(南5西2)のオーナーで全国に多くのファンを抱えるジャズシンガーの黒岩静枝さん(74)が、半年前から毎週金曜、札幌豊平教会(豊平区豊平6の3)に通い、生活困窮者向けの弁当を作るボランティアをしています。この経験は歌うことにも通じるといい、コロナ禍の中「正しいことを続けていきたい」と語ります。

(谷織恵)

「正しいこと続けたい」

教会では2017年から食事困窮している人に昼食を無料で振る舞ってきまし
た。今はコロナの影響で弁当にして手渡しています。
黒岩さんが作る料理は180人分。木曜は仕込みのために店を閉め、金曜朝、教会に料理を届け、他のボランティアとバック詰めします。「自分も何かできないかと作ったら好評で。今では2、3品作っています」

うよという人。おかずも増え、受け取った人から喜ばれていますと話します。助けたり助けられたりしていかねければ。黒岩さんの姿に影響を受けたファンも社会活動をするようになったそうです。

黒岩さんが作るのは、ひじきの煮物やポテトサラダなど体に優しい料理。食材は自分で用意しますが、黒岩さんに賛同した人から米や野菜、またお金の援助を受け、企業からケーキを寄付されました。

親の反対を押し切り、ジャズシンガーとして活動して56年。19歳でベトナムとタイの米軍キャンプを慰問し、帰国後ナイトクラブやホテルの専属ボーカル、米国立留学を経て、36歳でデイバイデイをオープンしました。全国各地でライブも行った。日本人離れした迫力ある歌声は道内外のファンを魅了。今月開催された国内最大級のジャズの祭典「サッポロ・シティ・ジャズ」では初日を飾りました。

今後毎週金曜に黒岩さんの店でも、女性を対象に弁当を配ります。初回は24日午後0時半から。「そのためにケーキもサンタクロースの衣装も用意したのよ」とほほ笑みます。札幌豊平教会の稲生義裕牧師は「黒岩さんはできることをやろ

た。腹をくくったの。焦らず正しいことをしていれば自然と人の輪が広がっていく。助けたり助けられたりしていかねければ。黒岩さんの姿に影響を受けたファンも社会活動をするようになったそうです。

ジャズシンガー・黒岩さんがボランティア

昨年3月から今年10月まで、コロナの影響で店は休業しましたが、黒岩さんの表情に暗さはありません。休みに入ってすぐキッチンペーパーを使ってマスクを作り、600枚をデイサービスセンターに届けまし

た。「腹をくくったの。焦らず正しいことをしていれば自然と人の輪が広がっていく。助けたり助けられたりしていかねければ。黒岩さんの姿に影響を受けたファンも社会活動をするようになったそうです。」



④「歌を聴いて元気になってほしい」と、デイバイデイで佐々木さんのドラムで歌う黒岩さん
⑤教会でバック詰めをする黒岩さん(左)。ボランティアは皆、黒岩さんがプレゼントしたキラキラのマスクと帽子を着用

